

宝塔 世界之願 交通安全の碑

小竹地内の国道9号線沿い北側広場に「宝塔 世界之願 交通安全」...

この碑の建設は「近江国(現滋賀県)大津市瀬田 八景山正法寺 権大僧正田原日観」...

奉献者は「滋賀県八景山瀬田支部 有志」



小竹地内の国道9号線沿い(北側)に建つ宝塔

一同」となっており、資金は当時の金額で250万円と聞きました...

よって自動車などの交通量が非常に多くなり、それにともない名和町内でも多数の死亡事故が続出していました...

これも交通安全の碑のおかげとも思われます。当時このような事業に取り組まれた関係者のみなさんに敬意を表すものです...

「昭和55年12月から「ふるさとを探ろう」をご愛読いただきありがとうございます。平成13年1月号からのものが、近く「ふるさとを探ろう 第3集」として刊行されます。」

発掘現場から

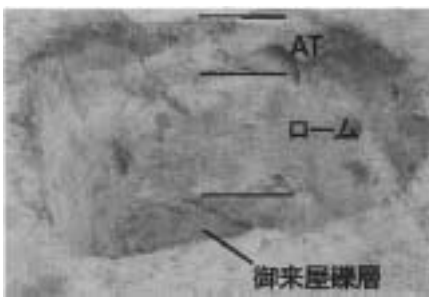
最終回

氷河期と坂道

鳥取県教育文化財団埋蔵文化財センター 名和調査事務所

名和町の地形の特徴を一言で言うと「台地」と「谷」だと言えそうです。中学生の自転車通学で、この台地と谷を横切って登下校する人たちは大変そうですね...

お話ししましょう。ずいぶん昔、今から2万年以上も昔のこと。私たちの先祖が今よりずっと寒い気候のなかで暮らしていた「氷河時代」のことです。



真です。昔といっても、2万年にくらべたら新しく、数千年前に掘られた穴でしよう。穴の内側に「AT」と書いてあるのは、鹿児島から飛ばされてきた火山灰の地層です...

2万年前はまだ大山が噴火していました。当時から名和町付近には人々がいたことがわかっています。石を打ち欠いた石器を使っていたのです。...

曙短歌会

*印は新仮名

- 永観堂並びて輝く阿弥陀堂幽玄の美に心洗われる 遠藤 定子
* 踏切りの向こうに立つ人轟音に影はいくつも千切れちぎれて 金田美彌子
発表会の満足いかぬ出来ばえにこの次こそ我はあすなる 塩谷 峯子
参観に子らの描けるクレヨンスランの白鳥小春日の廊下に群れて 角 公邦
あけくわを部屋に飾れば色づける小さな秋を楽しむこの頃 角田 文子
* 惚けるも惚れるというも同じ文字 ならば惚れたいとことん短歌に 寺井 悦子
「逃げなさい」声をかけつつ戸を開けぬ踏み潰しさつな小さな虫に 戸野 愛子
* 耳にあて潮騒聴きし貝殻は初冬の浜に晒されている 野口 律子
「寒いなあ」一人こちして見上げたる間にオリオン三ツ星の冴ゆ 森本 怜子

笹鳴句会

- 初層八十路の夢を託しけり 逢坂 常盤
水仙花一叢凜と天を突く 國谷 麗子
七草に足らぬは承知なつな粥 砂口美二子
とんどの子顔より大き餅あぶる 角田 久子
成人の日装いに父若し 津村 春水
初明り年の音たて厨こと 橋本 昭子
嶽始大山雄姿真向ひに 宮川 節子
伯耆野の星の若水汲みにけり 美柑みつる

みふね句会

- 竜の玉海の底ひの色持ちて 秋山多喜子
笹鳴の巢籠拾いし裏参道 来海 忠満
落款を海に押たき初日かな 国谷 耕川
竜の玉竹鉄砲で飛ばしけり 高島 満代
さまざまな鶉のあつまる年賀状 津村 春水
大山の清き姿や大旦おおあした 畑 昭
年の湯や八十路の憶深ぶかと 中川 幸宗
兄は喜寿妹は古稀恵方道 榎田 福女
雨だれにうたれて光る竜の玉 松井 愛子
鏡餅筥の縄目匂ひけり 美柑みつる